城跡でつながる、自然と暮らしの場nononowa

@nononowa

活動の場所	福島県田村市長外路地区

活動目的

東日本震災と原発事故の影響を受けた里山地域において、放棄された森林・農地・城跡などの地域資源を再生しながら、生物多様性の保全と地域コミュニティの再生を同時に進めることを目的としています。自然と人が共にある暮らしの場を創出し、次世代への持続可能な環境と文化の継承を目指します。

活動内容

荒廃した棚田や森林・城跡を再生し、在来植物の活用や生物調査、自然農法、環境教育、地域住民との里山保全活動などを通じて、生物多様性の保全と持続可能な地域づくりを実践しています。

- 放棄された棚田や耕作放棄地、荒廃した森林・竹林の再生活動
- 在来植物（ナツハゼ等）の植栽・育成と加工品の開発
- 日本ミツバチの養蜂やビオトープ整備を通じた生態系の再生
- 絶滅危惧種を含む生物のモニタリング調査・保全活動
- 自然農法によるシェアファームの運営と環境負荷の少ない農の実践
- 小学生・大学生・移住希望者等を対象とした自然体験・環境教育の企画・実施
- 地域住民と連携した草刈りや里山整備のボランティア活動の展開
- 自然と共に暮らすライフスタイルを発信するカフェ・マルシェ・イベントの開催

竹のコンポスト作り

耕作放棄地へのベリーの定植活動

草刈り部隊のヤギ

PRしたいポイント

震災被災地の里山や城跡を舞台に、民間主導による里山・農地・城跡の再生に取り組む全国的にも希少なモデルであり、ナツハゼやニホンミツバチなどの在来種を活用し、栽培・加工・販売・教育までを地域内で循環。農業・食・遊び・文化体験を通じて、自然と共に生きる暮らしを五感で学び、楽しむ場を提供しています。多世代参加による自然再生と暮らしの循環を実践する、全国的にも希少な地域共創型のモデル拠点です。

活動効果、今後の展開　等

■ 活動効果

地域住民や多様な担い手が関わることで、放棄地が生態系豊かな場へと再生され、絶滅危惧種の確認や環境学習の機会創出など、生物多様性と地域コミュニティの双方に好循環が生まれています。

■ 今後の展開

今後は、保全活動と自然共生型の暮らしを融合させた地域モデルとして、エコツーリズムや環境教育、自然再生型農業の展開を進め、持続可能な土地利用と30by30の目標達成に寄与していきます。

一般社団法人nononowa

https://www.instagram.com/nononowa.p/